正





M TYOUH

(4000A)

実 用 新 案 登 録 顯



昭和55年3月4日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

1. 考案の名称

**炒炒炒** 断熟板

2 考 案 者

住所 大阪府堺市新金岡町2-5-6

氏名藤島好男

(ほか/名)

3. 実用新案登録出願人

住 所 (〒/04) 東京都中央区銀座6丁目/7番2号

名 称 (664) 新日本製鉄化学工業株式会社

代表者 今 井 大 宗

TEL 03-542-1321

4. 添付書類の目録

ひが明 細 歯

/ 通

(2) (図

面:

通

太陽集閥(8)

··/,通

 $\sqrt{55}$  027157





明 細 舊

- 考案の名称
  新 込 次
- 2. 実用新案登録請求の範囲
  - 1. 基材と無機吹付断熱材層とを接着削層を介して一体にしてなる断熱板。
  - 2. 無機吹付断熱材層が、無機繊維と無機結合 材から主としてなるものである実用新案登録 請求の範囲第1項記載の断熱板。
  - 8. 無波繊維がロックウールであり、無機結合 材がセメントである実用新索登録請求の範囲 第2項配載の断熱板。
  - 4. 基材が、木板、プラスチック板、発泡プラスチック板、セメント板、石膏板、繊維強化セメント板、硅酸カルシウム板、木毛板からなる群から選ばれたものである実用新菜登録請求の範囲第1項記載の断熱板。
  - 5. 無機 吹付断熱材層がロックウール 80~ 70%、ひる石0~20%、ポルトランドセ

The state of the last and the state of the s



أنمنته

メント又は高炉セメント20~40%、石筒0~20%からたる材料を水および空気と共に、1000mm以上離れた箇所から吹付けてなるものである実用新采登録請求の範囲第1項記載の断熱板。

#### 8. 考案の詳細な説明

本考案は、基材と無機吹付断熱材層を接着削 層を介して一体にしてなる軽量、吸音、不然そ の他の特長を育する断熱板に関するものである。 本考案を以下図面に示す一実施例により説明 する。なお、図中1は基材、2は接着削層、3 は吹付断熱材層である。

基材1の材質は、木、合成樹脂、金属、セラミックス、コンクリート等任意であるが、軽量性で重点を置く場合は木、合成樹脂等が好なして動力を置けるとは、一下のであるが、できるのであるとができる。しては、木板、ブラスチック版、発

泡プラスチック板、セメント板、石膏板、繊維 強化セメント板、硅酸カルシウム板、木毛板等 が好適である。

吹付断熱材層 8 は、無機繊維、無機結合材を 主材とするものであって、その他情材、少量の 粘着剤、着色剤、有機接着剤等を含有すること ができる。無機繊維としては、ロッククール、 クラスウール、アスペスト等が使用できるが、



別えば、ロックウール30~70%、ひる石 0~20%、ポルトランドセメント又は高炉セ メント20~40%、石膏0~20%の割合と した材料が好適なものの一例である。

吹付断熱材層 8 を設けるに当っては、上記のような組成の材料を接着剤層 2 を設けた基材 1 に向けて吹き付けることによって行う。吹付法

しては、無機繊維、無機結合剤等の材料をス ラリーとして空気と共に吹き付ける湿式法、材 料を乾いたまま水と空気と共に吹き付ける乾式 法、無機繊維又は無機結合材のいずれかをスラ リーとし他は乾いたまま空気と共に吹き付ける 半湿式法が知られているが、乾式法かよび無機 繊維をスラリーとする半湿式法が吹付断熱材層 の厚みと密度を可及的均一にする点で優れる。 特に、吹付断熱材層 8 の厚みを 1 0 ㎜以下好ま しくは 5 皿前後としたものは取扱いその他の点 で浸れるが、とのように薄いものは均一に吹き 付けることが困難であるので、次のような方法 で吹き付けることが望ましい。すなわち、吹き 付けガンを基材1から1000m以上の高さに保 持して雪を降らせるように吹付け、その後ロー ル又はコテ押えして所定の厚みに仕上げるよう にすると、密度が均一で且つ表面が平滑を吹付 断熱材圖3を得ることができる。なお、吹付渡 は通常の乾式吹付機を使用することができる。

## 公開實用 昭和56- 130832

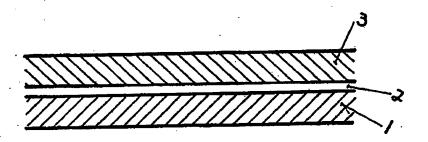


その表面に薄い被膜を設けたり、塗装することがある。また、断熱板を強固且つ容易に取り付けるために基材の裏面に接着削層を設けたり、 基材の所要簡所に補強されたピス穴等を設ける ことがある。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は、本考案の断熱板の断面図であり、図中1は基材、2は接着剤圏、3は吹付断熱材層である。

実用新溪登録出題人 新日本製鉄化学工業株式会社



### 130832

#### Reference 2

Figure

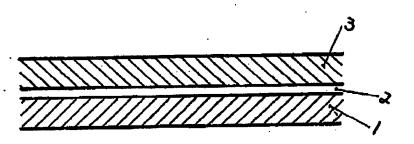
1: Base (such as woody board, plastic board, foamed plastic board, cement board, gypsum board, fiber-reinforced cement board, calcium silicate board, etc)

2: Spray Heat-resistant Material Layer (which formulated inorganic fiber and inorganic binder material such as cement)

3: Adhesive Layer (used such as polyvinyl-acetate adhesive)



5. 前記以外の考案者 (注析) 大阪府堺市新金岡町2-5-6 (注析) 大阪府堺市新金岡町2-5-6 (共名) 中 以 7時 氏名 中 山 泰 昭



### 130832

Reference 2

Figure

1: Base (such as woody board, plastic board, foamed plastic board, cement board,

gypsum board, fiber reinforced cement board, calcium silicate board, etc)

32: Spray Heat resistant Material Layer (which formulated inorganic fiber and inorganic binder material such as cement)

Adhesive Layer (used such as polyvinyl-acetate adhesive)

